

[平成18年度設置]

琉球大学大学院 人文社会科学研究科

比較地域文化専攻（博士後期課程）

設置に係る設置計画履行状況報告書（抜粋）

国立大学法人 琉球大学

平成20年4月1日現在

作成担当者

担当部局（課）名 総務部企画課

職名・氏名 企画係長・具志堅興治グシケンコウジ

電話番号 098-895-8105

（夜間） 098-895-8105

F A X 098-895-8013

e-mail kkkaku@to.jim.u-ryukyu.ac.jp

目 次

1	調査対象大学院等の概要等	1
2	授業科目の概要	4
3	施設・設備の整備状況, 経費	7
4	既設大学等の状況	8
6	留意事項に対する履行状況等	9
7	その他全般的事項	10
別紙	「A 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」	13

大学院等設置に係る設置計画履行状況報告書

1 調査対象大学院等の概要等

(1) 設置者

国立大学法人 琉球大学

(2) 大学院名

琉球大学大学院 人文社会科学研究科 比較地域文化専攻（博士後期課程）

(3) 大学院の位置

沖縄県中頭郡西原町字千原 1 番地

(4) 管理運営組織

職名	認可時	変更状況	備考
学長	(モリタモウシ) 森田 孟進 (平成11年6月1日)	(イワサキルイ) 岩政 輝男 (平成19年6月1日)	学長任期満了による変更 ^⑩
研究科長	(ナカチ ヒロシ) 仲地 博 (平成16年7月1日)	(ウエサト ケンイチ) 上里 賢一 (平成20年4月1日)	研究科長任期満了による変更 ^⑩

(5) 調査対象研究科等の名称, 定員, 入学者の状況等

(5) -① 調査対象研究科等の名称, 定員

調査対象研究科等の名称 (学位)	認可時の計画			備考
	修業年限	入学定員	収容定員	
人文社会科学研究科 比較地域文化専攻 (博士後期課程)	3年	4人	12人	基礎となる学部名等 法文学部総合社会システム学科 法文学部人間科学科 法文学部国際言語文化学科

(5) -② 調査対象研究科等の入学者の状況

区分	報告年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平均入学定員 超過率	備考
		人	人	人		
A 入学定員	(-) 4	(-) 4	(-) 4	1.25 倍		
志願者数	(3) 15	(6) 12	(4) 8			
受験者数	(3) 15	(6) 12	(4) 8			
合格者数	(1) 6	(3) 6	(2) 3			
B 入学者数	(1) 6	(3) 6	(2) 3			
入学定員超過率 B/A	(1) 1.50	(3) 1.50	(2) 0.75			

(5) -③ 調査対象研究科等の在学者の状況

学年	報告年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	備考
1年次	[2] 6	[0] 6	[0] 3		
2年次	[]	[2] 6	[0] 5		
3年次	[]	[]	[2] 6		
計	[]	[]	[]		

(5) -④ 調査対象研究科等の退学者等の状況

区分 対象年度	退学者数 (a)	入学者数 (b)	入学者に対する 退学者数の割合 (a/b)
平成18年度	計 [0] 0	計 [2] 6	[0%] 0%
	うち平成18年度入学者 0人	うち平成18年度入学者 6人	
	(主な退学理由)		
平成19年度	計 [0] 0	計 [2] 12	[0%] 0%
	うち平成18年度入学者 0人	うち平成18年度 6人	
	うち平成19年度入学者 0人	うち平成19年度 6人	
	(主な退学理由)		
平成20年度	計 [0] 1	計 [2] 15	[0%] 6.7%
	うち平成18年度入学者 0人	平成18年度 6人	
	うち平成19年度入学者 1人	平成19年度 6人	
	うち平成20年度入学者 -人	平成20年度 3人	
(主な退学理由) 就学意欲の低下 (1人)			

2 授業科目の概要

<人文社会科学部 比較地域文化専攻（博士後期課程）>

(1) 授業科目表

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考	
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
比較地域文化総合演習Ⅰ（歴史）	1	2			3						
比較地域文化総合演習Ⅱ （文学・言語）	1	2			4						
比較地域文化総合演習Ⅲ （考古学・人類学）	2	2			3						
比較地域文化総合演習Ⅳ （社会・政治）	2	2			2						
比較地域文化特別研究Ⅰ	1	2			12						
比較地域文化特別研究Ⅱ	2	2			12						
比較地域文化特別研究Ⅲ	2	2			12						
比較地域文化特別研究Ⅳ	3	2			12						
琉球史学特論	1・2		2		1						
琉球史学演習	1・2		2		1						
琉球近世史学特論	1・2		2								
琉球近世史学演習	1・2		2								
琉球考古学特論	1・2		2		1						
琉球考古学演習	1・2		2		1						
琉球中国関係史特論	1・2		2		1						
琉球中国関係史演習	1・2		2		1						
琉球日本精神文化史特論	1・2		2		1						
琉球日本精神文化史演習	1・2		2		1						
異民族支配論特論	1・2		2		1	1					専任教員の昇格のため⑱ 平成19年8月 変更書提出予定
異民族支配論演習	1・2		2		1	1					専任教員の昇格のため⑱ 平成19年8月 変更書提出予定
比較文化特論	1・2		2		1						
比較文化演習	1・2		2		1						
琉球民俗学特論	1・2		2		1						
琉球民俗学演習	1・2		2		1						
東アジア民俗学特論	1・2		2								
東アジア民俗学演習	1・2		2								
東アジア文学特論	1・2		2		1						
東アジア文学演習	1・2		2		1						
琉球語学特論	1・2		2		1						
琉球語学演習	1・2		2		1						
言語政策特論	1・2		2		1						
言語政策演習	1・2		2		1						

授業科目の名称	配当年次	単位数又は時間数			専任教員配置					備考
		必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
沖縄文学特論	1・2		2		1					
沖縄文学演習	1・2		2		1					
環境文学特論	1・2		2		1					
環境文学演習	1・2		2		1					
アジア社会学特論	1・2		2		1					
アジア社会学演習	1・2		2		1					
平和学特論	1・2		2		1					
平和学演習	1・2		2		1					
国際関係論特論	1・2		2		1					
国際関係論演習	1・2		2		1					
島嶼産業政策特論	1・2		2		1					
島嶼産業政策演習	1・2		2		1					
比較死生学特論	1・2		2		1					
比較死生学演習	1・2		2		1					
琉球文学芸能論	1・2		2							
琉球・沖縄文化要論	1		2		4					
アジア文化構造要論	1		2		4					
比較文化構造要論	1		2		3	1				専任教員の昇格のため⑱ 平成19年8月 変更書提出予定
環太平洋移民社会文化論	1・2		2							
近代沖縄とアジア論	1・2		2							
比較アジア民族文化論	1・2		2							

(2) 授業科目数

認可時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計	必修	選択	自由	計	
科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	科目	
8	45		53	8	45		53	
				[]	[]	[]	[]	

(3) 未開講科目 … なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	未開講の理由, 代替措置の有無
1	なし				
2					
3					

(4) 廃止科目 … なし

番号	授業科目名	単位数	配当年次	必修・選択	廃止の理由, 代替措置の有無
1	なし				
2					
3					

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

なし

(6) 「認可時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目と廃止科目の計}}{\text{認可時の計画の授業科目数の計}} = 0$$

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容				備 考					
(1) 校 舎 敷 地	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	貸与者 沖縄県、沖縄森林管理署 H20.4.1~H21.3.31@ H19.4.1~H20.3.31@					
	校 舎 敷 地	584,990㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	584,990㎡ (0㎡)						
	運 動 場 用 地	93,280㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	93,280㎡ (0㎡)						
	小 計	678,270㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	678,270㎡ (0㎡)						
	そ の 他	7,744,548㎡ (6,981,452㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	7,744,548㎡ (6,981,452㎡)						
	合 計	8,422,818㎡ (6,981,452㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	8,422,818㎡ (6,981,452㎡)						
(2) 校 舎	専 用	157,117㎡ (157,117㎡)	0㎡ (0㎡)	0㎡ (0㎡)	157,117㎡ (157,117㎡)	大学全体					
	共 用										
(3) 教 室 等	講 義 室	96室	演 習 室	97室	実験実習室	289室	情報処理学習施設	10室 (補助職員 3人)	語学学習施設	10室 (補助職員 2人)	大学全体
	新設学部等の名称	人文社会科学研究科 比較地域文化専攻				室 数		17 室			
(5) 図 書 ・ 設 備	新設学部等の 名称	図 書	学術雑誌		視聴覚資料	機 械 ・ 器 具	標 本				
		[うち外国書] 冊	[うち外国書] 種	電子ジャーナル [うち外国書] 種				点	点	点	
		人文社会科学研 究科 比較地域 文化専攻	577,278 [175,110] (577,278 [175,110])	12,303 [4,210] (12,303 [4,210])	[] ([])	15,797 (15,797)	197 (197)	0 (0)			
計	577,278 [175,110] (577,278 [175,110])	12,303 [4,210] (12,303 [4,210])	[] ([])	15,797 (15,797)	197 (197)	0 (0)					
(6) 図 書 館	面 積	9,938㎡		閱 覧 座 席 数	860		収 納 可 能 冊 数	1,007,750			大学全体
	面 積	5,245㎡		体育館以外のスポーツ施設の概要 グラウンド, サッカー場, 野球場, プールその他							
(8) 経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度			
		教員1人当り研究費等	千円	千円	図書購入費	千円	千円	千円			
	共 同 研 究 費 等	千円	千円	設備購入費	千円	千円	千円				
	学生1人当 り 納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次				
		千円	千円	千円	千円	千円	千円				
学生納付金以外の維持方法の概要		該当無し									

4 既設大学等の状況

大学の名称	琉球大学							備考
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年	所在地
	年	人	年次人	人		倍		
法文学部								
総合社会システム学科 (昼間主コース)	4	170	12	794	学士(法学、経済学、政策科学・国際関係論、総合社会システム学)	1.04	平成9年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
総合社会システム学科 (夜間主コース)	4	30	8	176		1.09	平成9年度	
人間科学科	4	95	3	386	学士(人文社会)	1.06	平成9年度	
国際言語文化学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	学士(人文学)	1.07	平成9年度	
国際言語文化学科 (夜間主コース)	4	30	4	128	学士(人文学)	1.01	平成9年度	
観光産業科学部								
観光科学科	4	60	—	200	学士(観光学)	1.02	平成17年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
産業経営学科 (昼間主コース)	4	60	—	120	学士(経営学)	1.01	平成19年度	
産業経営学科 (夜間主コース)	4	20	—	40	学士(経営学)	1.12	平成19年度	
教育学部								
学校教育教員養成課程	4	100	—	400	学士(教育学)	1.09	平成11年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
生涯教育課程	4	90	—	360	学士(教育学)	1.02	平成11年度	
理学部								
数理科学科	4	40	—	160	学士(理学)	1.03	平成8年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
物質地球科学科	4	65	—	260	学士(理学)	1.05	平成8年度	
海洋自然科学科	4	95	—	380	学士(理学)	1.04	平成8年度	
医学部								
医学科	6	95	5	590	学士(医学)	1.00	昭和54年度	沖縄県中頭郡西原町字上原207番地
保健学科	4	60	—	240	学士(保健学)	1.02	昭和56年度	
工学部								
機械システム工学科 (昼間主コース)	4	90	3	366	学士(工学)	1.00	平成5年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
機械システム工学科 (夜間主コース)	4	20	—	80	学士(工学)	1.12	平成5年度	
環境建設工学科	4	90	4	368	学士(工学)	1.02	平成5年度	
電気電子工学科 (昼間主コース)	4	80	3	326	学士(工学)	1.05	平成5年度	
電気電子工学科 (夜間主コース)	4	10	—	40	学士(工学)	1.20	平成5年度	
情報工学科	4	60	—	240	学士(工学)	1.06	平成5年度	
農学部								
生物生産学科	4	55	—	220	学士(農学)	1.06	平成3年度	沖縄県中頭郡西原町字千原1番地
生産環境学科	4	40	—	160	学士(農学)	1.06	平成3年度	
生物資源科学科	4	35	—	140	学士(農学)	1.08	平成3年度	

6 留意事項に対する履行状況等

区 分	留 意 事 項	履 行 状 況	未履行事項について の実施計画
認 可 時 (平成18年4月1日)	該当なし		
設置計画履行状況 調 査 時 (平成19年4月1日)	該当なし		

7 その他全般的事項

<人文社会科学研究科 比較地域文化専攻（博士後期課程）>

(1) 設置計画変更事項等

認可時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
修了要件単位数 24単位以上 必修科目16単位, 選択科目8単位以上 ※博士課程に3年以上在学し, 修了要件単位数以上を 修得し, かつ, 必要な研究指導を受けた上で, 学位論文の審査および最終試験に合格すること。	変更なし

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD活動含む）

<p>実施状況等</p> <p>本専攻の担当教員は博士課程前期課程も兼担しているため、人文社会科学研究科が主催するFD活動にも積極的に参加し、授業改善および自らの資質の維持向上に取り組むべく努力している。ちなみに昨年度は3月27日の人文社会科学研究科のFD「大学院生からみた大学院教育」に博士課程後期の院生も登壇し、大学院の教育・研究指導について意見を述べている。なおそれには本専攻教員も4名出席した。</p> <p>本専攻では、FDを含む教員の資質の維持向上を図る方策を検討する委員会は特に設置していない。しかし「総合演習」が、現時点ではその役割を果たしている。本専攻の目玉とも言うべき「総合演習」は、博士課程後期担当の全教員と院生が一堂に会して行われる演習形式の授業である。半学期ごとに、歴史系、人類系、文学・言語・社会等系の教員がローテーションで司会をつとめ、院生は、事前に指導教員の指導を受けながら発表に備えるが、90分の授業時間のうち、30分程度の発表の後、全員参加による討論が行われる。専門はそれぞれ異なるものの、発表内容に対して、出席教員からは問題設定、論理構成、解釈などについて、さまざまな鋭い質問や意見、批判が述べられ、それに対して、発表者は、趣旨を十分汲み取った上で、的確に、わかりやすい説明が求められる。「総合演習」で受けたさまざまな指摘は、直ちに指導教員は院生の指導に反映させ、次回の発表につなげている。</p> <p>博士課程後期課程の場合、「特別研究」の講義や博士論文の指導については、受講生も少なく、授業評価アンケートが実施しにくい状況にある。その意味では、本専攻のこうした「総合演習」の実施形態は、かつての蝸壺的な博士論文指導における弊害をなくし、かつ指導教員の資質の改善にも大いに役に立っている。</p> <p>「総合演習」の運営にあたるのは、本専攻の教務委員であり、年度初めには、オリエンテーションや発表順序等について、専攻会議へ諮った上で、院生への説明を行っている。但し出欠は専攻主任が取っているが、博士課程後期担当教員は、全学の委員会や出張などやむを得ない時以外は、毎週水曜日の6限目（18時～19時30分）の授業へ、ほとんど全員が出席している。</p> <p>また『年報』において教員個人の教育・研究活動を公開し、互いに刺激を受け合う中で自らの研究の向上も図っている。</p>

(3) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

(別紙のとおり)

② 自己点検・評価報告書

a 公表(予定)時期

平成22年5月頃公表予定

b 公表方法

現在、本研究科の教育研究に関する現況調査を取りまとめている。この調査結果を踏まえ、認証評価に向けた全学的な評価スケジュールと連動した自己点検・評価を平成21年度に実施する。その公表については、認証評価の評価結果後に行う予定である。

③ 認証評価を受ける計画

平成21年度に大学評価・学位授与機構を第三者評価機関として、認証評価を受ける予定。

(4) 情報提供に関する事項

① 設置認可申請書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (19年 4月 日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置認可申請書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/houjin_siryou/setti_keikaku/)

② 設置計画履行状況報告書

a ホームページに公表の有無 (有 ・ 無)

b 公表時期 (未公表の場合は予定時期) (20年 5月 日)

c 文部科学省ホームページから、貴学ホームページの「設置計画履行状況報告書」掲載ページへのリンク
(承諾する ・ 承諾しない)

d 上記で「承諾する」を選んだ場合、そのリンク先のアドレス
(http://www.u-ryukyu.ac.jp/univ_info/general/houjin_siryou/setti_keikaku/)

設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

琉球大学大学院人文社会科学研究科博士後期課程（比較地域文化専攻）の設置の趣旨・目的は、第1に沖縄の持つ地理的・歴史的・文化的諸条件を生かした学術研究を積極的に推進し、琉球大学を国際的学術研究・教育交流拠点（知の交流拠点）に相応しい教育研究の内容と組織を有する高等教育機関として整備充実し、地域文化社会関係に関する新たな学問大系を構築し、我が国の学術振興に貢献することにある。第2に世界の中の琉球・沖縄という観点から、「琉球・沖縄」、「アジア」、「比較」をキーワードにして、政治学、社会学、経済学、言語学、文学、歴史学、民俗学、考古学等に関する学問領域を総合し、琉球・沖縄と世界各地とをつなぐ具体的な課題について多角的な視点から解明していく能力を有する高度専門職業人と、大学や研究機関で活躍できる専門家を養成することにある。

本専攻の修了者の人材イメージは、①高度専門職業人、②研究者、③外国人研究者、④社会人専門家の高度化、⑤総合的能力を備えた人材となっている。

設置以来3年間の応募者、合格者の状況を見ると、上記の設置の趣旨と目的、設置の必要性に記載した内容を裏付けるものとなっており、修了者のイメージに描いた計画の実現に向けて、当初の方針に沿った指導体制を推進することが肝要である。

3年目を迎えた本専攻は、外国人を含む8人の応募者があり、3人が合格した（一般選抜1人、社会人2人、外国人0人）。2年次5人（一般選抜2人、社会人3人、外国人0人）3年次6人（一般選抜3人、社会人1人、外国人2人（中国1・タイ1））と合わせて在籍者は14人となっている。

「設置の背景」に記載してある「海外からの注目度」、「国内からの注目度」は、応募者・合格者の内容によって確認でき、本専攻に寄せる内外の期待が大きいことがわかる。また、18年度は、沖縄県主催の「世界のウチナーンチュ大会」に合わせて、ハワイ大学と学術面のワークショップを本専攻と共同で開催した他、ネバダ大学（アメリカ）スタッフとの教育懇談会を開くなど、教育と研究の国際的連携も順調に進んでいる。

本専攻の教育面における特色である複数指導教員制の導入は、大学院生全員と担当教員全員が参加する「比較地域文化総合演習」の円滑な運営、「比較地域文化特別研究」の指導における主査と副査の緊密な連携による実施などに見られるように、効果的に運用されている。